

「ひとが人として認めあい、ともに育つ地域社会」

第20号
男女共同参画広報紙

H28. 1. 25発行

は〜とふる 日光

日光市男女共同参画
「は〜とふる日光」10年
特集

《第16号》
絆を考え
テーマは「家族」



225名中の3名!
平間さんに聞く

《第14号》日光市の女性自治会長

女性の視点での自治会運営って?



《第10号》
子育てを楽しむ
イクメン特集



日光交通株式会社
みなさんに現状を聞く

《第8号》第1回 男女共同参画推進事業者表彰

女性が入って何が変わったの?



《第6号》

平成21年4月施行の
日光市男女共同参画
推進条例を紹介

《第5号》

平成20年3月
日光市男女共同参画都市宣言、
「男女共同参画プラン日光」
策定の紹介

今はどのように
実施されていますか?



《は〜とふる日光創刊号》

平成18年10月31日発行

新日光市男女共同参画社会づくり

あれから10年
日光市長に聞く



～日光市長に男女共同参画について聞いてみました～



Q1

市役所内部における女性の活躍推進状況はどうか。

10年前と比べて職員の性別による固定的な役割分担意識もかなり減ってきています。

日光市における管理・監督職（係長以上）の女性職員は平成27年度4月現在、概ね5人に1人です。

次世代育成対策法に基づき職員一人ひとりのワークライフバランスの実現に向け、本年度から平成31年度までの第2期日光市特定事業主行動計画前期計画を策定しました。その中で女性のキャリア形成支援や女性職員の登用、職域拡大を掲げています。

管理・監督職の女性の人数は増えていますが、さらに女性の活躍が進むよう職員のスキルアップを支援してまいります。



特定事業主行動計画がこれから活かされていくと良いよね。

日光市は積極的に取り組んでいるんだ。
私たちが頑張らなくっちゃ。



Q2

どうすれば男女共同参画について市民にもっと関心をもってもらえると考えますか。

日光市は市域が広いので、地域にあったテーマを設定して、5地域全てで男女共同参画セミナーを実施しています。また、市内全ての高校でセミナーを開催し、若者への早期啓発と男女共同参画に対する理解を深めています。しかし、残念ながら一般対象の男女共同参画セミナー参加者がなかなか集まらない状況です。その中で、セミナー等に来られない方に対して男女共同参画広報紙「はーとふる日光」は、情報提供や啓発をする大きな役割を果たしています。

新日光市としての男女共同参画が10年過ぎました。市民の意識を高めるように知恵を出してやっていきましょう。



男女共同参画セミナーに参加しようよ。

「はーとふる日光」も頑張らなくっちゃ。



Q3

市長は家庭において男女共同参画を推進するための心がけや実践していることはありますか。

私は、市の職員になって24歳で結婚し、子供は3人います。妻は教員をやっていたためなかなか休めなかつたので子供を病院に連れて行ったのは主に私でした。

周りの協力もあり、妻は定年まで勤めることができました。共稼ぎでうまくやっていくためには、家庭でいかに多く男がやるかということでしょう。家の中に洗濯物を干せるように作ってあり、今でも自分の洗濯は自分でやっています。食事は妻が料理が好きなので妻が作ることも多いですが食器洗いはやりますよ。あまりけんかはしたくない、ということで習慣としてやってただけです。



市長も家事をやっているんですね。

お互いに相手を尊敬したり
労わったりすることが
大切なんだね。



* 男女共同参画推進事業者表彰第1号 日光交通株式会社を取材しました。 *



女性ドライバー
えど 江戸ハツエさん
相談役
まだらめたけただ 斑目武忠さん
業務課長
さとうけいすけ 佐藤啓介さん

Q1

男性の多い職場に女性を採用し、栄えある事業者表彰第1号ですね。

斑目さん：事業者表彰されて会社としても非常に明るくなった気がします。当時、会議の場でも常に話題となり嬉しい気持ちになりました。積極的に女性を入れたいなと思いました。

佐藤さん：受賞がきっかけで「男女共同参画」ということの大切さを認識しました。

Q2

女性が入ってよかった点は。

斑目さん：会社の雰囲気がすごく変わりました。よかったですね。

佐藤さん：江戸さんに関しては、男性だから女性だからというのは関係なく、タクシーの運転手として非常に能力が高い人なので、何度もお客様からのお礼状が届いています。

男性も女性もお互いに刺激し合えるってことは、良いことだね。



Q3

会社としての女性ドライバー採用について教えてください。

佐藤さん：ドライバーの平均年齢が高くなっていますが、女性に限らずドライバーの応募がありません。ここ日光では、冬期の需要が減ってしまうのも課題です。この仕事は命を預かる大切な仕事です。お客様がいっぱいきて、ドライバーのなり手も増える魅力のある憧れの仕事にしていき、女性ドライバーも増やしていきたいです。

Q4

男性の多い職場ですが、この仕事をやってみようと思った理由は何ですか。

江戸さん：子育てが一段落したことで仕事を探し若い時に第2種免許を取り、運転には自信があったのでこの仕事を選びました。はじめ、命を預かる大切な仕事なのでためらいましたが、続けてきてよかったと思います。仕事は制度面でも男女の区別がない安定した仕事です。

Q5

仕事上、女性でよかったこと、逆に困ったことはありましたか。

江戸さん：タイヤの交換でタイヤが持ち上がらなかったことがありましたが、笑ってごまかすことができました。今はできますよ（笑）。お酒を飲んだ女性のお客様には、「女性運転手でよかった。安心して家まで送ってもらえる。」と喜んでくださる方もいます。

Q6

江戸さんは、どのようなことを心がけていますか。

江戸さん：お客様に自分の知っている日光の知識を全部教えてあげようと思っています。



江戸さんの
笑顔が素敵！

～女性自治会長の太陽ファミリーランド自治会～

藤原地域にある太陽ファミリーランド自治会は、役員10名中7名が女性。副自治会長も3名中2名が女性です。別荘地の自治会として他の地区とは違った面での仕事がありますが、持ち前の明るさとパワーとアイデアで乗り切っています。

Q1 自治会長の仕事内容を教えてください。

平間さん：市からの配布物を各班の役員に届けたり、行政推進員としても委嘱され、住民に会議の連絡などを行っています。



後列(左: 高原さん、右: 手塚さん)
前列(左: 四十物さん、中: 平間さん、右: 相澤さん)

Q2 自治会活動と家庭のバランスはどのように行っていますか。

高原さん：自治会活動は役員だけでなく住民の方も協力してくれます。家庭に負担が掛からないように各自が自分でできる範囲の活動を行っています。一斉清掃も2カ月に1回ありますが、その日でなくても前後の日でもよいとなっており、各自が気にするようになりました。それを考えた平間会長はすごくアイデアマンだと思います。

平間さん：清掃日の前後でもよいということになれば、住民の皆さんが参加しやすくなり、不公平さがなくなると考えました。

女性ならではのアイデアが公平感と一体感をもたらし団結力を生んでいるだね。



Q3 自治会として工夫されていることはありますか。

平間さん：お祭りの時に参加者を把握しようと色紙に名前を書いてもらっています。記念にもなるし、誰が来たか一目瞭然です。このようなアイデアは女性ならではのアイデアだと思います。形式ばったものでなく、みんなを楽しませるのが好きなんです。



Q4 女性自治会長を増やすには、どうしたら良いと思いますか。

平間さん：今までは、自治会長は男性の役割として見ていたと思います。しかしリーダーは、男性に限らず女性でもできます。日光市は男女共同参画を推進している訳ですから、どんどん女性リーダーが出てきてくれれば場が和むと思います。



仕事は大変だと思いますがもっと女性自治会長が増えると良いですね。

Q5 自治会長は大変な仕事だと思いますが。

平間さん：私は人との交流が好きなんです。ここは、別荘として利用している方がたくさんいますが、よく来ている方とはお友達感覚で接しています。

高原さん：皆さん平間会長をお友達だと思っている様です。

平間さん：自治会を良くしようと思ったら、みんなに協力してもらわないと良くならないですから。自治会のモットーとして、「明るく、楽しく、元気よく」で頑張っています。

第1回とちぎ女性会議 2015 を終えて

平成27年8月23日(日) 日光田母沢御用邸記念公園で開催された
第1回とちぎ女性会議の主催者を代表して吉田公美よしだ くみさんに伺いました。



Q1 とちぎ女性会議を行おうと思ったきっかけは。

私は昨年、栃木県の次世代人材育成事業に参加し、その研修の一環で、札幌市で行われた第31回日本女性会議に参加させて頂き、大変感動しました。日本全国から、約2000名の女性の方(男性も参加可能です!)が集結し、現在の日本における男女共同参画の問題や課題を共有します。同じ女性として共感できることが沢山ありましたし、とてもよい刺激にもなりました。ただ、同世代の参加者が少なく感じ、とても勿体ないなという感想を持ちました。そして、このような場を、小さい規模でもいいので、栃木県で作りたいと純粋に思ったことが、「とちぎ女性会議」を開催するきっかけとなりました。

Q2 とちぎ女性会議を開催していかがでしたか。

どんな会議にしたいかの内容を考える時に注意したことは、若い世代の方々に参加してもらえる内容であることです。札幌で開催された日本女性会議に出席して強く感じたことは、若い世代への告知・認知が必要だということ。このような場には若い世代の参加者が少ないと常々感じております。しかし日本の未来を考えた時に必要なのは、20代・30代・40代の主力になる世代の力です。今回、自分たちで開催する「とちぎ女性会議」では、特にその年代の方々の参加を意識して告知を行いました。その成果もあり、参加者の4分の3が10~40代という結果となりました。最大のテーマは「共感し共有する、等身大の私達」です。

とちぎ女性会議を開催した効果として考えられることは、ひとりひとりの意識を上げることが少しでもできたのではないかということ。主力世代がたくさん足を運んでくださった(興味を持って参加してくれた)ことが、主催者である実行委員会として大きな成果だと思っています。

Q3 とちぎ女性会議の今後の方向は。

女性会議を無事に終えて、ひとつ目標が出来ました。続けていくことの大切さです。今回、会場である田母沢御用邸記念公園の研修ホールは80名が定員でした。当日は立ち見まで含めると100名以上の方々に参加して頂きました。規模を更に広げて…とは考えていません。規模は小さくても、着実な効果をだしていきたいと考えています。

私たちひとりひとりの未来は、栃木県の未来そのものです。たくさんの仲間を増やしていきたい、そのための「とちぎ女性会議」でありたいと思っています。

とちぎ次世代人材づくり2014に参加して

平成26年度とちぎ次世代人材づくりに日光市から参加した
くらすわじゅん
倉澤 順さんに感想を伺いました。



右から2番目が
倉澤さん

地域や社会の担い手、地域に貢献するリーダー育成を目的としたこの研修は、コミュニケーション能力、プレゼンテーション法などリーダー研修から始まり、「まちづくり」をテーマに企画、検証、フィールドワーク、最終的には政策提言を作成し発表するまでを約半年で行う、かなりハードな研修でした。

当時私は個人で、日光をテーマにした商品の製作販売をしていました。集客を伸ばすための一つの要因として、まちの活性化に大きな関心を持っていて、この研修に参加をしました。しかし研修を受け、たくさんの事を学びました。「行動する」事の重要さと難しさと責任を感じました。

例えば見つけた問題が「地域」の問題点であれば、地域の人たちの協力無しには解決はできません。しかし、地域の人を巻き込んで活動するにはかなりのパワーが必要です。無責任に個人的見解のみでがむしゃらに行動すれば、解決ではなく、自分が新しい問題点になってしまいます。

今でも地域活性に対しての強い思いを持っています。しかし、焦らず、地域の方々と共に活動できる事から始めて行こうと思っています。

日光市「女性の活躍」応援プロジェクト

プロジェクト概要

日光市と経済団体等が連携し、ライフスタイルに応じた多様な働き方を可能にし、女性の活躍を促進させ男女ともに充実した生活が送れるよう社会環境の整備及びさらなる地域経済の活性化につなげる事業を実施します。

プロジェクトI

キャリア・マネジメント講座

実施済

平成27年11月5日(木)と17日(火)の両日、日光商工会議所今市事務所において、(株)あしぎん総合研究所 野内 比佐子氏を講師に迎えリーダーシップや解決力向上に向けて研修を行いました。

女性の能力開発、意識改革に向け市内企業に勤務もしくは在住の女性約30人が参加し、参加者同士の交流によりネットワーク形成を図りました。



プロジェクトII

企業向けセミナー

実施済

平成27年10月30日(金)道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣において(有)フェードイン 工藤敬子氏を講師に迎え「経営戦略としての女性活躍」多様な人材のベストミックスで生き残る企業へのセミナーを開催しました。

市内企業の経営者、人事担当者等、一般市民約30名が参加し、ワーク・ライフ・バランス推進により、働く女性を支援する社会的機運の醸成を図りました。



プロジェクトIII

日光市「女性の活躍」応援プロジェクト事業報告 (男女共同参画社会づくりフォーラムin日光にて行います。)

プロジェクト事業参加者による研修報告会を行い、「女性の活躍」に関する現状・課題等の共通意識を深め、さらなる女性活躍推進に向けた機運の醸成を図ります。

○日程/平成28年2月14日(日)

フォーラム(開場/12:30 開演/13:00 終了/15:40)

プロジェクト報告/13:35~14:00

○会場/日光市今市文化会館

皆さんの来場を
お待ちしております
※申込不要

「はーとふる日光」の創刊号から第20号までは、ここで見る您可以通过。



編集後記

「故きをたずねて新しきを知る」という言葉があるように、今回私たちは20号の節目を迎え、過去の記事を振り返りその中から現在も活躍中の人物や企業をピックアップして取材しました。取材させていただいた皆さん、今まで読んでくださった市民の皆さんありがとうございます。皆で知恵を出し合い、果たす役割は違っても公平で一体感のある男女共同参画社会の実現に向けて頑張っていきたいと思います。今後とも「はーとふる」をよろしくお願いたします。

【取材・編集】 松本 祐子(栗山) 歌津 宏康(今市) 星 美智子(今市) 竹下 恵子(今市) 小日向 智(日光)
渡邊 早苗(日光) 荒引 寿子(藤原) 山越 正朗(藤原) 小林 律(足尾) 神山 悠利(足尾) 平野 啓一(栗山)